

4

稲荷通

JR発寒中央駅横の線路を横切る通りで稲荷街道とも呼ばれています。稲荷とは、沿線の発寒神社の御神体が京都伏見稲荷神社の分霊であること由来します。

明治九年、発寒地区に三十二戸の屯田兵村ができて以来、発寒地区はこの通りを中心に発展してきました。発寒の歴史は、南北に貫く稲荷通の歴史とともに語られます。



▲昭和61年の稲荷通（JR発寒中央駅付近）

5

正路通



▲現在の正路通（西町南6付近）

西町地区を旧国道五号線と平行に走る通り。

昭和初期、この通りが道幅も狭く、砂利道だったころ、沿線に住んでいた白井正路氏は自宅の前のこの通りを常日ごろから熱心に補修していました。

このことから、昭和二十二年、当時の手稲村役場が村道の名称整備を行ったときに同氏の名前を採り正式に命名しました。

6

広島通

西野地区の中央を南北に貫く通り。明治十八年に広島県から今の西野第二地区辺りに六戸十八人の人々が入植し、有名な西野米を産する水田の開発を進めました。当時は、この地域を南北に貫く延長約三キロの農道が開拓移民の生活の中心でした。この広島県人の功績をたたえて、一帯を「広島開墾」と呼ぶようになり、この道路もまた広島の名を冠せられるようになりました。



▲昭和48年の広島通（西野9-7付近）

7

文化通

旧国道五号線から三角山宮の森入り口に向かう中央区との境界の通り。

地元に住む屯田兵の三代目の方の話によると「大正十三年ころ、現在の旧国道五号線からこの通り沿いの山の手方面に向け、電気が引かれた。各戸に電灯がとれるようになり、文化的な生活ができること喜んだことから、当時自分の父親を含む近所の住民が相談して決めた」ということです。

建物の建築様式から付いたという説もありますが、これは後年の話のようです。



▲現在の文化通（山の手1-3付近）